

水木しげる氏

表紙絵

＝ゲゲゲの森が見えてきたぞ＝

表紙絵：水木しげる

- | | |
|-----------------------------------|-----|
| ・ 特集：YA(ヤングアダルト)向けサービスのごあんない…………… | 2～3 |
| ・ 子どものほんに親しむ会…………… | 4 |
| ・ 利用者懇談会報告…………… | 5 |
| ・ 冬のイベントあれこれ…………… | 6 |
| ・ 調布市立図書館公式キャラクター じろ と申します…………… | 7 |
| ・ 郷土の歴史と伝承…………… | 8 |

ヤングアダルト

10代のみなさんへ

YA向けサービスのごあんない

調布市立図書館で行っているYA世代（中高生世代）向けのサービスをご紹介します。

キラリ！輝く1冊 中学生にすすめる本

年に1回発行しているリストです。新刊から古典的作品まで、中学生におすすめの子ども本を集めて、紹介しています。市内の全図書館で配布しています。

「キラリ！輝く1冊 中学生にすすめる本2021」→
(令和3年度発行)



ぶちねこ便



↑ 2021年11月号 (No. 429)

中学生の「記者」たちが、「活字離れを防ぐために全て手書きで作業をする」、「中学生の視点で物事を観察する」という2つの理念のもと、日常生活での体験や感想・意見・詩、毎月の特集などを自分たちで編集し、中学生向けの小冊子「ぶちねこ便」として毎月発行しています。市内の全図書館で配布しています。昭和59（1984）年7月に第1号を発行し、今に続いています。

中央図書館

平成30年度から、年に1回、4階でYA向けの展示を行っています。おすすめの本のポップを自由に書いてもらって掲示するなど、展示を見る人も参加できるようにしています。また展示の際に作成している資料のリストを、年間通して館内で配布しています。

今までのYA向け展示テーマ

平成30年度：「未来をつくる創造」11月～1月

写真集から小説まで、いろいろなジャンルのおすすめの本を集めて展示しました。

令和元年度：「ファンタジーの世界へ」 1月～3月

ファンタジー小説と、ファンタジーの世界を知るための本を展示しました。

令和2年度：「変幻自在のサイエンス」 1月～3月

科学の本や理系の人たちが出てくる小説、SF小説などを展示しました。

令和3年度：「Masterpieceを探して」 1月～3月

長く読み継がれる幅広いジャンルの古典や名著と、その解説書を展示しました。



←令和2年度
の展示の
ようす



令和3年度の配布リスト↑

分館

国領分館、深大寺分館、佐須分館には、YA向けに、テーマを決めて本を展示したり、市内のイベント情報をお知らせしたりする「ぶちさんコーナー」があります。思ったことやイラストなど、自由に書いて投稿できる「ぶちさんポスト」もあり、投稿は館内に掲示されます。

富士見分館では、令和3年度から「ぶちねこ便記者の推し本」「ファンタジー特集」などYA向けの展示を行っています。



↑富士見分館の展示
「ぶちねこ便記者の推し本」

令和3年度 子どものほんに親しむ会

親子で楽しむわらべうた

講師：^{えのきだ}榎田 光代氏

令和3年11月18日(木)に、社会福祉法人小松福祉会理事の榎田光代さんをお招きし、わらべうたの面白さ、奥深さについて、実演を中心にお話しいただきました。講演の内容を一部ご紹介します。

●大切なことは子どもとの愛着関係

この関係がすごく大事。でないと周りに人との輪を広げていく子どもにはならないんです。だからよく聞く耳を育てることは1番大事です。赤ちゃんがわかっているかは別としてちゃんと話をしあげてくださいね。わらべうたも、まるでお話をするように歌いましょう。

わらべうた するもの よっといで♪
おうちでも使ってみては？
おさんぽするものよっといで♪



♪このこどこのこ に合わせてその場で1回転！

● こんなわらべうたをやりました

♪せんべ せんべ

せんべ せんべ やけた

どのせんべ やけた このせんべ やけた



ひざのせあそびの♪おんまさんのおけいこは、
立っても楽しめます。おんまさんみたいにジャンプ！

(講師作成リーフレットから引用)

赤ちゃんの手をおせんべいに見立て、塩せんべいにしたり、おしょうゆを塗ったりして歌いました。

魅力的なわらべうたをたくさんご紹介いただき、大喜びする赤ちゃんや、こもりうたで眠ってしまう赤ちゃんもいました。終始リラックスした雰囲気の会となりました。



榎田 光代 氏

白梅学園短期大学保育科卒業、同大学附属幼稚園勤務。その間羽仁協子氏に師事。元うめのき保育園園長。
社会福祉法人小松福祉会理事。全国わらべうたの会会員。

利用者懇談会報告

令和3年11月25日（木）に、調布市立図書館利用者懇談会を開催しました。第1回目に予定していた調和分館はコロナ禍の影響もあって参加申込者がなく中止となりました。第2回目は文化会館たづくりの会場で行いました。「コロナ禍の図書館活動を振り返って」をテーマに2部構成で実施しました。

第1部は、今まで経験したことのない新型コロナウイルス感染症の拡大の中での、調布市立図書館の動きを時系列に説明しました。第2部は、参加者の図書館活用方法や図書館へのご要望・ご質問などを含めた意見交換を行いました。

意見交換では、自粛を余儀なくされ図書館に通うこともできなかった利用者の意見や、コロナ禍を乗り越えての出版業界とこれからの図書館の運営面に関する様々なご意見・ご要望等もいただきました。「調布市立図書館の職員はとても頑張っていると思う」「いつも便利に利用できて感謝している」など、日頃の図書館サービスに対しての感謝のお声も多く頂戴しました。

▼第2回目 中央図書館



▼利用支援係



同日午前中に、令和3年度利用支援サービスの利用者懇談会を開催しました。利用者9人、音訳者2人、点訳者6人、布の絵本製作者1人にご参加いただきました。

まず図書館から令和2年度の利用状況と、合成音声での録音図書目録作成について報告を行いました。次に、利用者から日頃図書館を利用するにあたり感じていることや質問を伺いました。サービスへの感謝や表彰をうけた音訳者へのお祝いの言葉もいただきました。また、インターネットの活用や図書のデジタル化に関する要望も出されるなど活発な意見交換があり、終始和やかな会となりました。現在は多くの情報が流通している中で、図書館としてもよりよいサービスを提供できるよう情報収集する必要を感じました。

各回とも活発に意見を出していただき、皆様の声を直接伺うことができた貴重な会になりました。詳しい内容は、図書館のホームページで公開しています。

利用者懇談会でいただきました様々なご意見などを活かし、より良い図書館になるよう目指してまいります。

たくさんのご参加ありがとうございました！



年始のイベントあれこれ



調布市立図書館で年始に実施した様々な企画をご紹介します。

おみくじ

令和4年1月4日(火)から30日(日)まで、深大寺分館、宮の下分館、佐須分館で実施しました。

おすすめの本などが書かれたおみくじを、

3館合計で762枚配布しました。



▲宮の下分館

絵馬

1年の目標や願いごとを書いて絵馬をつくる企画を、深大寺分館と佐須分館で実施しました。2館合計116枚の絵馬が集まりました。



▲深大寺分館

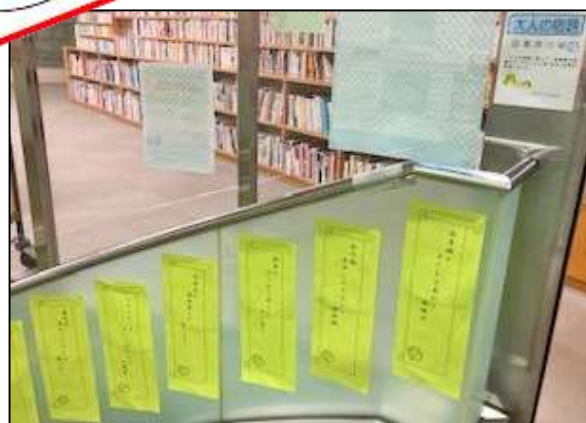


▲佐須分館

大人の宿題 冬休み

冬休みの大人の宿題と題して、図書館をテーマにした川柳・短歌・俳句を中央図書館で募集。個性豊かな73作品が集まりました。

作品は中央図書館の4階5階らせん階段に展示しています。令和4年1月26日(水)から3月27日(日)まで。



▲中央図書館

調布市立図書館の **じろ** と申します！



みなさま
こんにちは！

プロフィール

種類 メジロ
性格 温厚で好奇心旺盛
好きなもの ひなたぼっこ 花の蜜

じろヒストリー

2016年4月、調布市立図書館にじろがやってきました。当初は調布市立図書館開館50周年記念キャラクターでしたが、2017年4月からは公式キャラクターに就任！調布市立図書館を盛り上げるべく活動しています。



いろいろなじろ

季節のイベントに合わせて様々なじろがいます。

その数**500種類以上**！「じろさがし」などのイベントやポスター、チラシに登場していますので、チェックしてみてくださいね。



ちいさいじろ？

ちいさいじろを見たことはありますか？この子は

こじろと言います。



じろを慕う小さなめじろです。目が大きく羽が丸いのが特徴です。



LINEスタンプもあります



これからがんばります！
応援よろしく
お願いします！



村の子どもと遊び

関口 宣明のぶあき

調布が農村だったころ、次世代を担う子どもたちは、地域社会のなかでどのように成長していったのでしょうか。誕生した子どもは、地域の風習にしたがって、まわりの年長者のふるまいを模倣して育ちました。ここでは、年令に応じた遊びや年中行事への参加をとおして伝えられてきた村の子どもたちの生活について考えます。

1. 昔のままごと遊び

子どもの生活では、季節に応じて様々な遊びが行われてきました。なかでも春の「ままごと遊び」は古くから幼児に人気のあるもので、調布では明治時代ごろまで「草つき」とよばれていました。この遊びは神社やお寺の境内で行われることが多く、石地藏や灯籠の台石の丸い凹みに、ヨモギやハスの葉を入れてコツコツと石で叩き、餅状にして地藏などに供えたり、「ままごと」をしたりしました。



石仏についた凹み

この石の凹みは、幾世代もの子どもたちが遊んできた跡です。ヨモギの若葉を石で叩くと粘りがでて餅のようになります。この遊びは本来、大人がその年の豊作を願って、神への供物として作った「草餅づくり」を模倣したものと考えられています。

日々の仕事に追われていた庶民の生活では、今とちがって、手間をかけ心をこめて食物を調理するのは、節句などの特別な日以外にはありませんでした。それだけに子どもにとってはご馳走づくりの印象があざやかに残ったので、調理を模倣する「ままごと遊び」は魅力が大きかったのでしょう。学ぶことのもとの意味は「真似ぶ」ことにあり、遊びはその重要な機会でした。

2. 年中行事と子ども

子どもは日ごとに成長して、しだいに親の手をはなれ遊び仲間に入っていきます。7才前後になると集団で遊ぶようになり、家庭で

は得られぬ経験をします。子ども仲間をつくり、おもに年中行事の機会に活動してきました。1月15日の小正月こしょうがつに行なわれる「セイノカミ（ドンド焼き）」や、2月に稲荷神いなりがみ（農耕神）を祀る初午祭まつ はつまりには、子どもたちがワラ、竹などの材料を集めて作った小屋こもに籠って神祭りをしました。

昭和10年代まで、深大寺地区や入間地区いりまでは、6、7才から12才ぐらいまでの子どもたちが「セイノカミノモチ（ゼニ）クンナイ」などといいながら村中をまわり、夜通しワラ小屋の中で食べる餅や、菓子を買うお金を集め、年上の子どもが分配しました。

小正月のように年の改まった夜には、神が人間を祝福するためにおいでになるという信仰がありました。このような行事は、古くは村の青年たちが神の代わりに家々を訪れていましたが、信仰が薄れて遊びの傾向をもつてくると、しだいに子どもたちの手によって行われるようになっていきました。

こうして教育制度の整っていなかった時代には、子どもは家庭や地域社会など、あらゆる場所で年長者からさまざまな生活の知恵を学んでいきました。なかでも遊びは、身近な動植物などの自然環境を理解したり、好ましい人間関係をつくったりするうえでも大切な働きをしてきたといえるでしょう。

参考文献：『調布市百年史』（昭和43年）

半澤敏郎『童遊文化史』（昭和55年）

刊行物番号

2021-192

図書館だより 第262号

令和4年3月25日発行 [市内印刷]

発行 調布市立図書館

〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1

TEL 042-441-6181

<http://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/>